

決算説明会

業績概要

2007年度 中間決算

(2007年4月1日～2007年9月30日)

2007年11月7日

代表取締役社長 庄田 隆



第一三共株式会社



決算概況

中間実績・通期予想修正

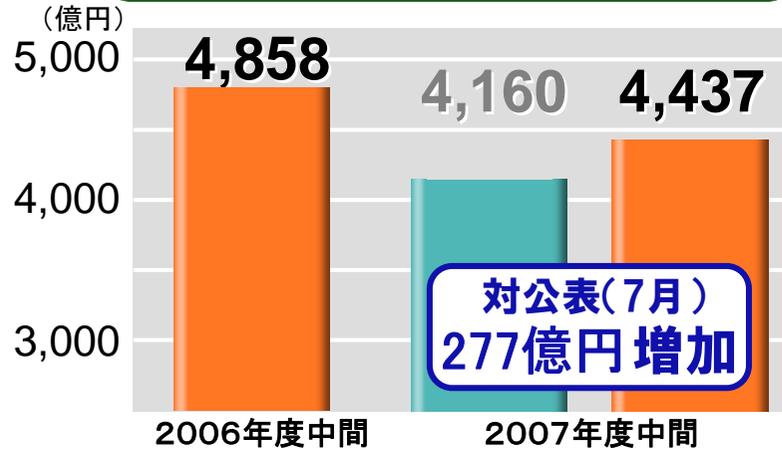


第一三共株式会社

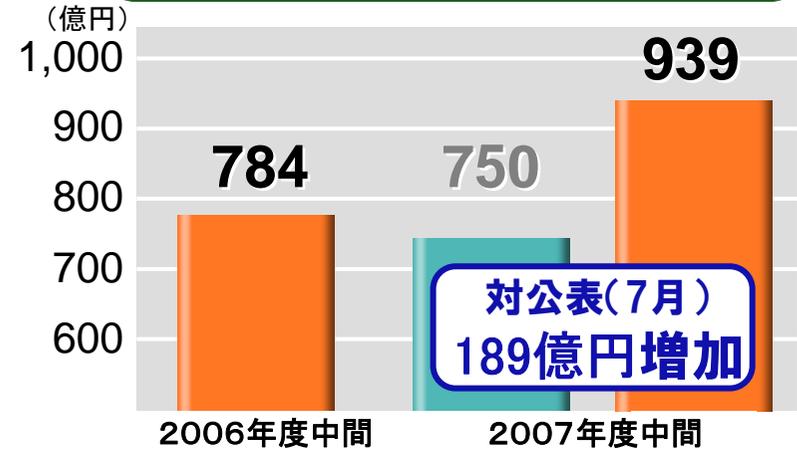


2007年度 中間決算(実績)の概要

売上高



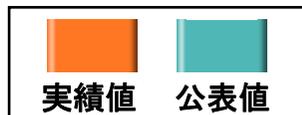
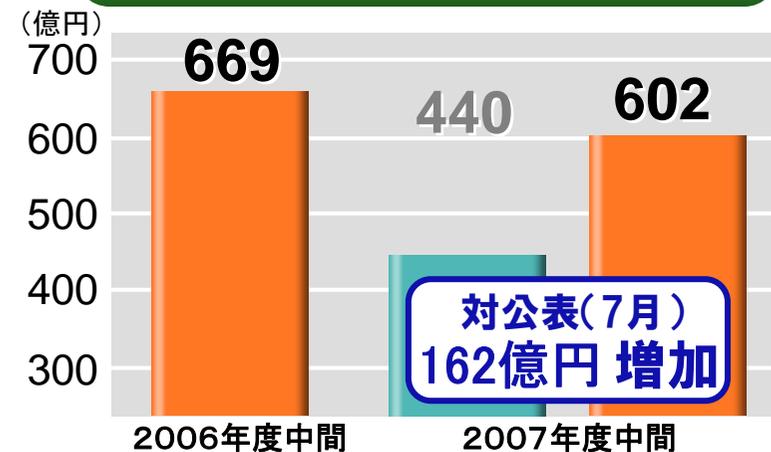
営業利益



経常利益



中間純利益



注: 決算期の変更により、当中間期はDSEについて、また前年同期はDSI,LPIについて3カ月分の業績が加算されています。





中間業績に関する計画差異の理由（7月公表値との比較）

1. 売上高 4,437億円 +277億円

■主要製品の売上増等 +114億円

- | | | |
|-------------|--------------|-------------|
| ●オルメサルタン+11 | ●レボフロキサシン+19 | ●ヴェノファー +48 |
| ●ウェルコール +14 | ●売上控除の減 | |
| ●オムニパーク -21 | ●カルブロック -12 | ●モービック -11 |

■非医薬品事業 +163億円

2. 営業利益 939億円 +189億円

■医薬品事業の営業利益 +196億円

- | | |
|--------------|---------------------------|
| ●売上総利益増 +127 | ・為替レート差など原価フリーの売上増 |
| ●一般管理費 -27 | ・国内販売促進費等減 |
| ●研究開発費 -42 | ・デノスマブ関連増、他のプロジェクト費用下期繰越等 |

3. 中間純利益 602億円 +162億円

- | | |
|------------|------------------------|
| ●営業外損益 +18 | ・利益+27(受取配当金増等), 損失+9 |
| ●特別損益 -12 | ・利益+5, 損失+17(統合関連損失増等) |
| ●法人税等 +32 | |



中間業績に関する増減の理由（前年同期との比較）

1. 売上高 4,437億円 -421億円 (-8.7%)

■主要製品の売上拡大等 +174億円 (+4.4%)

- オルメサルタン +219
- レボフロキサシン +41
- ウェルコール +22
- ロキソニン +18
- ユリーフ +13
- ヴェノファー +10
- 中南米子会社連結 +29
- プラバスタチン -133
- 一時金収入等減

■欧米子会社決算期変更 -174億円

■非医薬品事業 -421億円

2. 営業利益 939億円 +156億円 (+19.9%)

■特殊要因(非医薬外部化・欧米決算期変更)除外の営業利益 +278億 (+42.7%)

- 売上総利益増 +188
 - 一般管理費 -66
 - 研究開発費 -24
- ・品目構成改善、円安効果
 ・統合シナジー獲得>海外事業基盤拡充費用

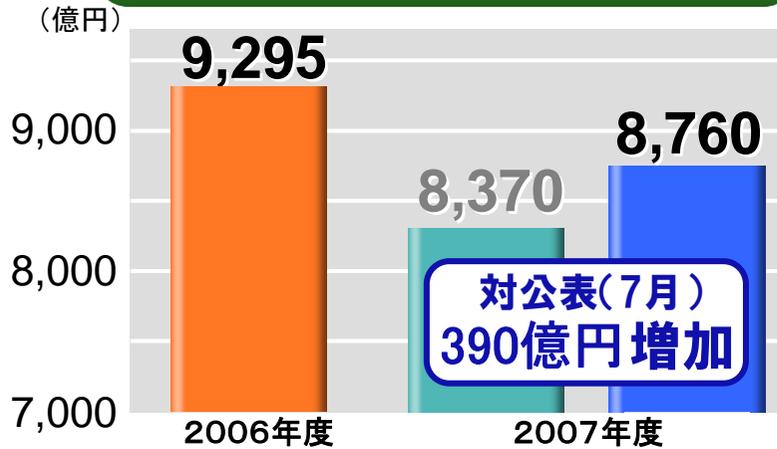
3. 中間純利益 602億円 -66億円 (-9.9%)

- 営業外損益 -31
- 特別損益 -129
- 法人税等 +63
- ・利益-29(米子会社擬似ストックオプション益減等), 損失+2
- ・利益-206('06/上:子会社売却益), 損失-77(統合関連損失減等)

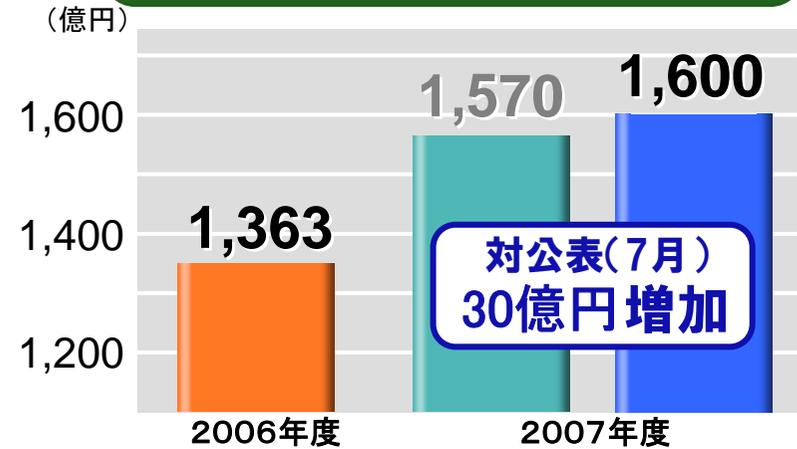


2007年度業績（修正予想）の概要

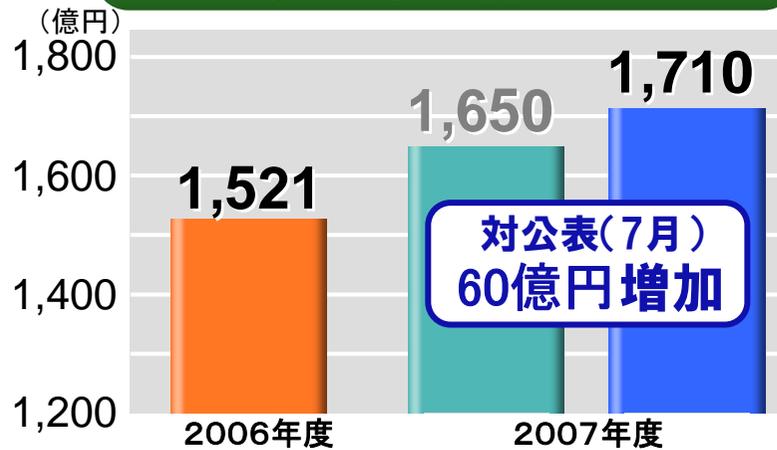
売上高



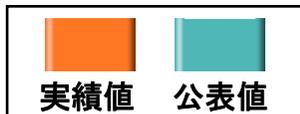
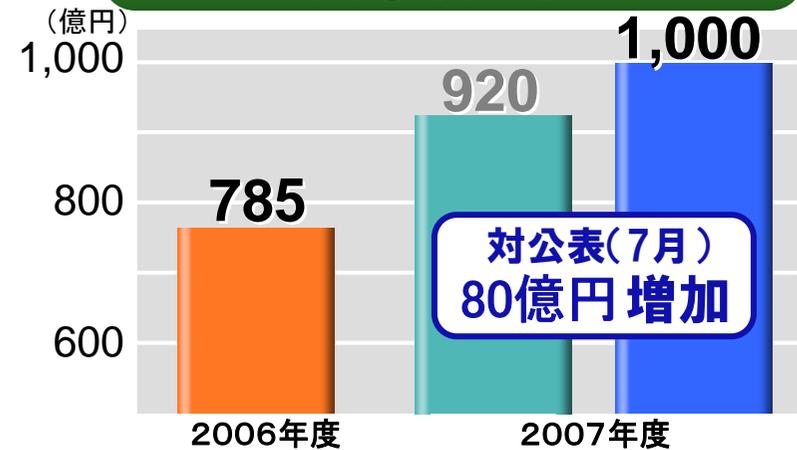
営業利益



経常利益



当期純利益



注：決算期の変更により、当年度はDSEIについて、また前年度はDSI,LPIIについて3カ月分の業績が加算されています。





主要製品売上高

(単位:億円)

製品名	2007年度 予想 (7月公表)	2007年度修正予想(11月公表)						
		上半期		年度		対前年増減		
			対予想 差異		対予想 差異	対'06	参考値	
GLOBAL	オルメサルタン <高血圧症治療剤>	1,950	966	11	2,020	70	417	509
	レボフロキサシン <合成抗菌剤>	1,080	529	19	1,100	20	59	
	プラバスタチン <高脂血症治療剤>	780	403	-2	790	10	-145	-161
日本	カルブロック <高血圧症治療剤>	135	48	-12	115	-20	27	
	アーチスト <高血圧症治療剤>	230	106	-9	220	-10	27	
	クレメジン <慢性腎不全用剤>	130	62	-3	130	0	8	
	ロキソニン <消炎鎮痛解熱剤>	350	164	-6	350	0	41	
	オムニパーク <造影剤>	340	159	-21	320	-20	5	
	ユリーフ <排尿障害改善剤>	80	23	-6	75	-5	52	
	ヴェノファー <貧血治療剤>	210	148	48	285	75	-92	-23
米国	ウェルコール <高脂血症治療剤 /糖尿病治療剤>	225	114	14	240	15	8	47

注: 決算期の変更により、当年度はDSEについて、また前年度はDSI,LPIIについて3カ月分の業績が加算されていることから、その影響を除外した増減額を参考値として表示しています。





補足1. 国内医薬品事業におけるシナジー効果

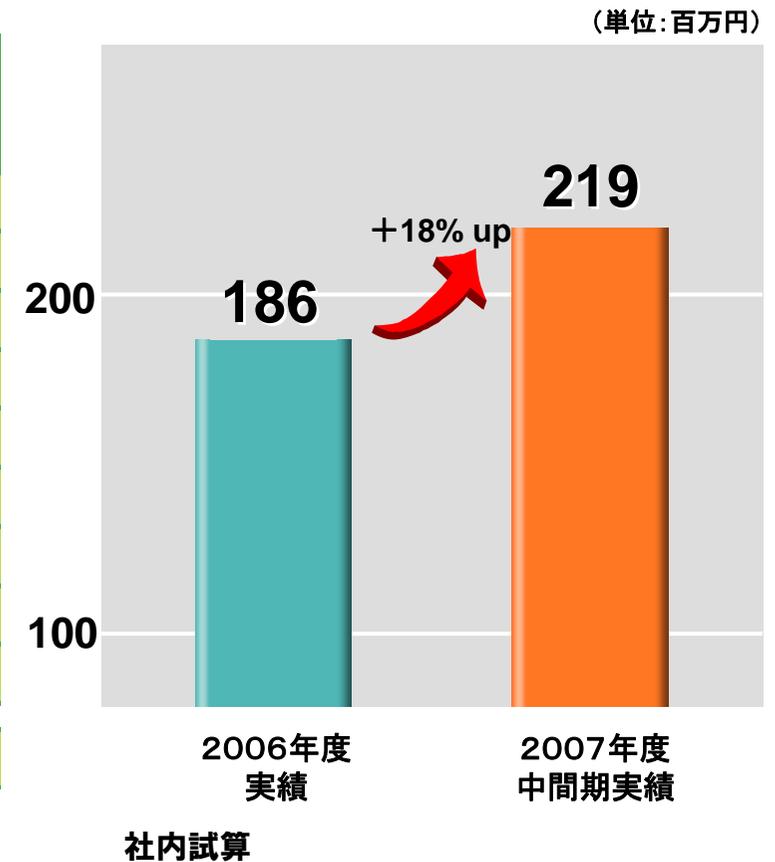
2007年度中間期 主力品成長率

(単位: %)

製品名		当該市場成長率	社品成長率
オルメテック	<高血圧症治療剤>	+15.7	+36.9
クラビット	<合成抗菌剤>	-4.3	+3.4
メバロチン	<高脂血症治療剤>	+6.3	-8.5
カルブロック	<高血圧症治療剤>	+3.8	+16.5
アーチスト	<高血圧症治療剤>	+1.9	+8.8
クレメジン	<慢性腎不全用剤>	+2.9	+0.8
ロキソニン	<消炎鎮痛解熱剤>	+7.6	+9.9
オムニパーク	<造影剤>	-0.9	-4.2
ユリーフ	<排尿障害改善剤>	+4.7	+151.8
上記品目計		+6.1	+6.5

Copyright2007 IMS ジャパン(株)
 出典: IMS JPM 2007年4-9月/2006年4-9月
 無断転載禁止

MR 生産性 (年換算)





補足2. 下半期業績（修正予想）に関する計画差異

（単位：億円，金額上段は対売上高構成比）

	7月公表 下半期予想	下半期修正予想（年度修正予想から上期実績を差引）		
			差異	備考
純売上高	100.0% 4,210	100.0% 4,323	113	・オルメサルタン+59 ・AZOR一時金+23 ・ヴェノファー+27 ・OTC+16
売上原価	23.9% 1,005	24.9% 1,078	73	
販管費	37.8% 1,590	38.2% 1,652	62	・国内販促強化 ・AZOR コプロモーション等
研究開発費	18.9% 795	21.6% 932	137	・新規導入〔デノスマブ〕開発費 ・大型プロジェクト開発進展
販管費計	56.7% 2,385	59.8% 2,584	199	
営業利益	19.5% 820	15.3% 661	-159	
経常利益	20.2% 850	16.3% 703	-147	
当期純利益	11.4% 480	9.2% 398	-82	



主要経営指標

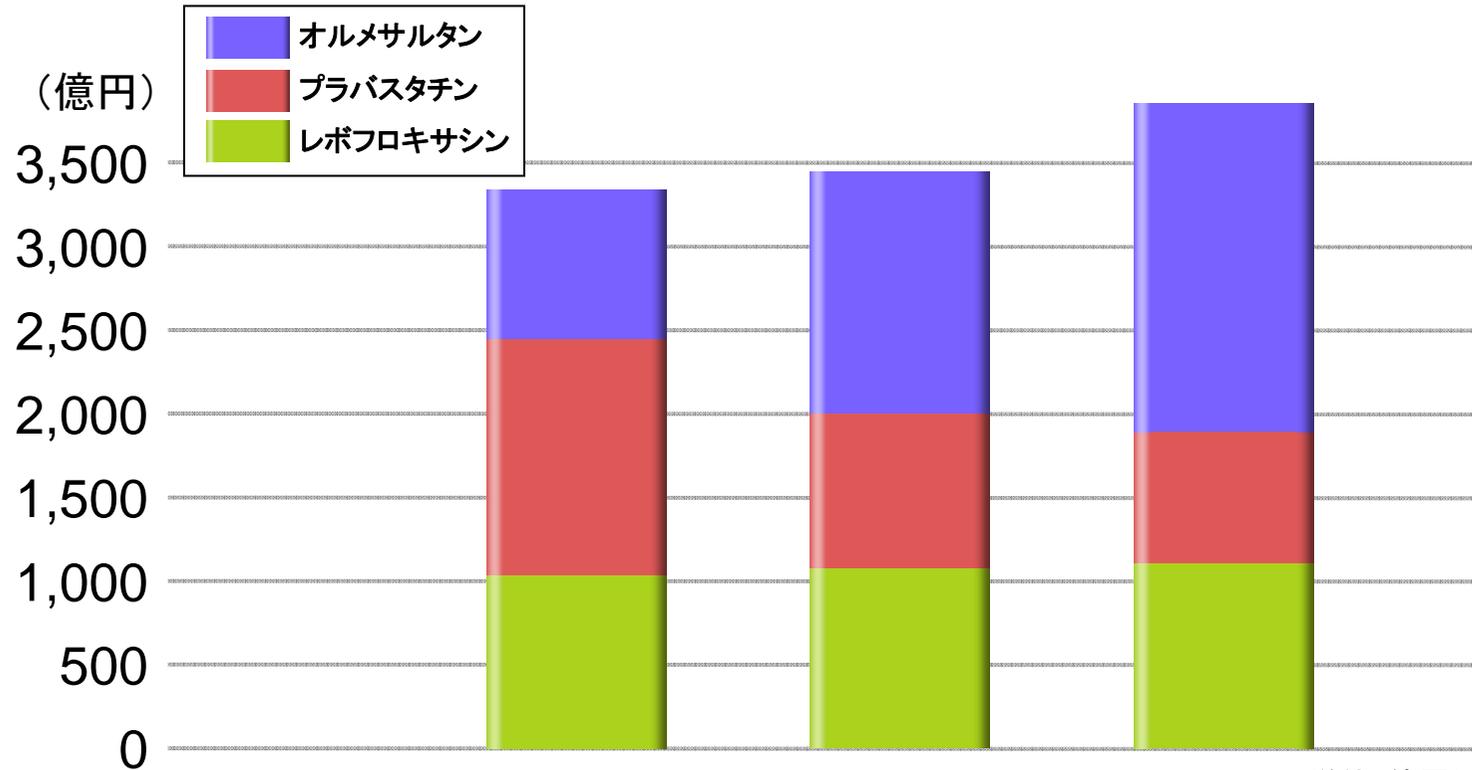
	単位	2006年度 実績			2007年度 修正予想		
		上半期	下半期	年度計	上半期 実績	下半期 予想	年度計
1株当り当期純利益	円	91.75	16.00	107.75	83.19	55.40	138.59
1株当り配当金	円	30	30	60	35	35	70
配当性向	%	—	—	55.7	—	—	50.5
期末発行済株式数	百万株	735	—	735	735	—	(735)
再掲)自己株式数		6	—	6	16	—	(16)
総資産	億円	16,345	—	16,368	15,158		
純資産	億円	12,840	—	12,721	12,703		
自己資本比率	%	78.3	—	77.5	83.6		
純資産配当率(DOE)	%	—	—	3.5	—		
自己資本当期純利益率(ROE)	%	—	—	6.3	—		
現金等期末残高	億円	4,158	—	5,132	4,539		



**この後 P9からP11につきましては、
業績推移の比較を容易にするために
欧米子会社3社の決算期変更による
影響を除外し、各年度とも12ヶ月分
の業績として記載しております。**



第一三共グループ 主力3品の推移



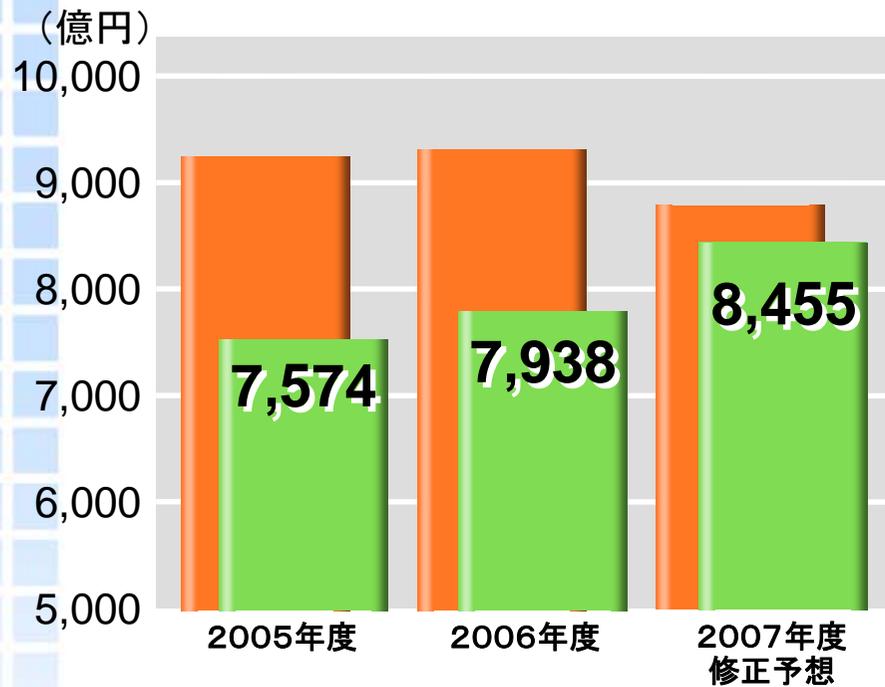
(単位:億円)

	2005年度	2006年度	2007年度修正予想
合計	3,371	3,423	3,830
オルメサルタン	924	1,447	1,955
プラバスタチン	1,432	935	775
レボフロキサシン	1,015	1,041	1,100

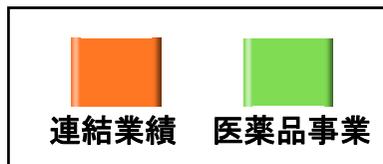
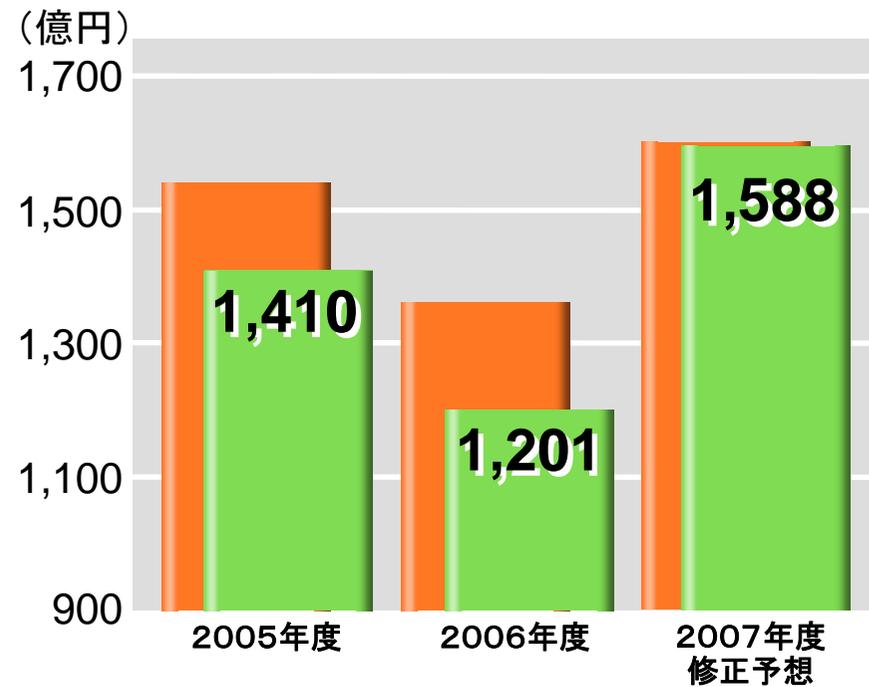


連結業績の推移（医薬品事業）

売上高



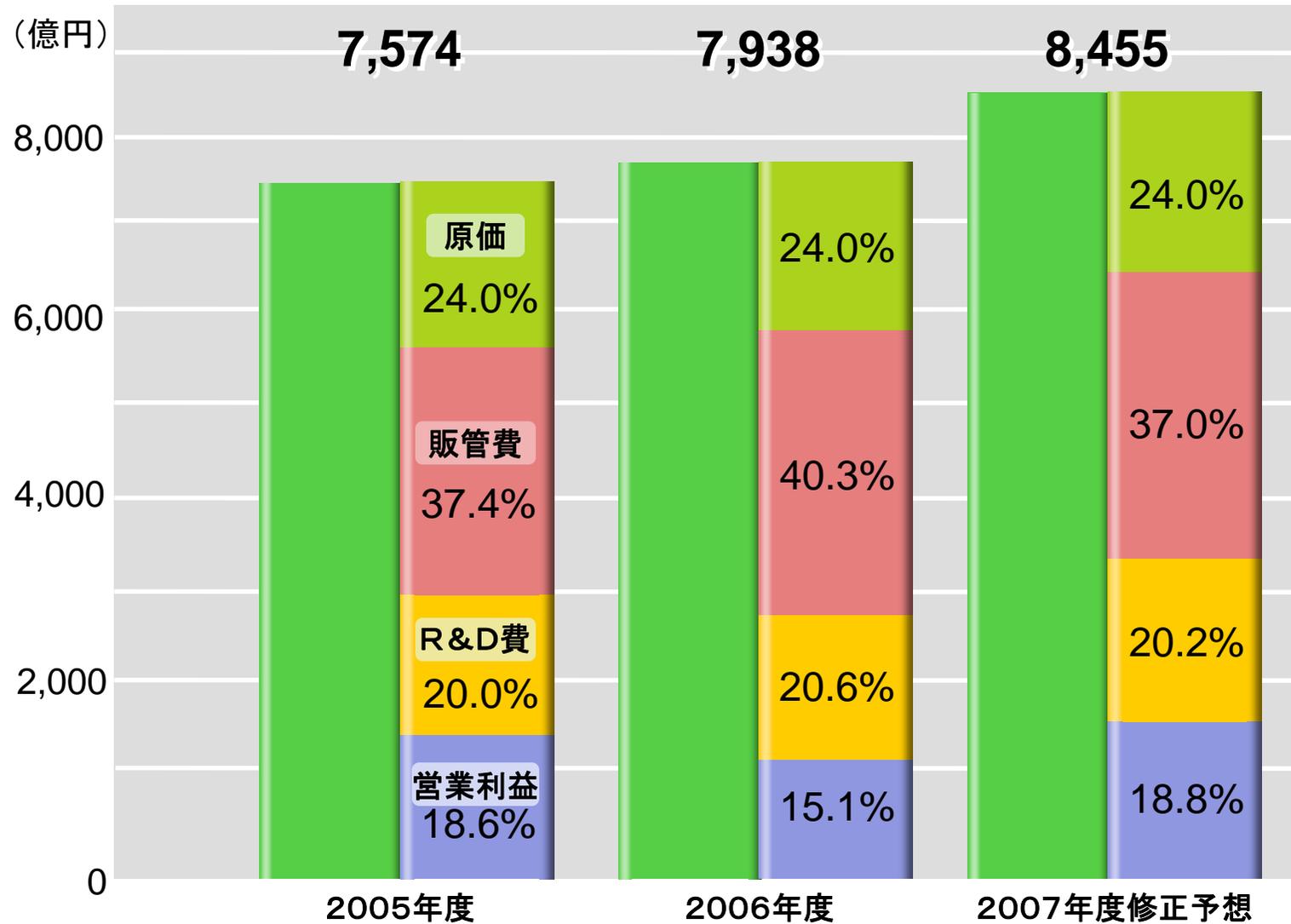
営業利益



(参考)	2005年度	2006年度	2007年度修正予想
海外売上高比率	38.4%	38.7%	39.5%



医薬品事業の損益構造推移





決算概況

研究開発パイプラインの現況



第一三共株式会社



主要開発プロジェクトの現況 ①

- Prasugrel (CS-747 抗血小板剤)
 - 2007年11月 AHA 既存標準治療薬に対する優越性を証明
 - 2007年12月 米国FDAにNDA 1st indication (PCI後のACS) 申請予定
 - 2008年第2Q 2nd indication (ACS全般) 取得に向けた治験を開始予定
 - 2008年12月-2009年初め 1st indication に対する承認取得予定

- CS-8663
(高血圧症治療剤 オルメサルタンとアムロジピンの配合剤)
 - 2007年09月 米国承認取得 Brand name: AZOR⇒10月より販売開始
欧州28カ国申請
⇒2008年秋から欧州各国にて逐次承認取得予定



主要開発プロジェクトの現況 ②

- DU-176b (経口抗Xa剤)
 - 欧米
 - ・THR(人工股関節全置換術)後のDVT(深部静脈血栓症)を対象としたフェーズ2b試験実施中
 - ・AF(心房細動)を対象としたフェーズ2b試験実施中
 - 国内
 - ・TKR(人工膝関節全置換術)後のDVTを対象としたフェーズ2b試験実施中
 - ・AFを対象としたフェーズ2b試験実施中

- DZ-697b (抗血小板剤)
 - 欧米・国内ともフェーズ1試験実施中
 - フェーズ2試験の開始を検討中



主要開発プロジェクトの現況 ③

- 承認取得
 - 高血圧症治療剤 AZOR (米)
 - 麻酔用鎮痛剤 フェンタニル注射液の小児への適応拡大 (日)
- 申請中
 - 高血圧症治療剤 CS-8663 (欧)
 - SUN 0588r (米)高フェニルアラニン血症
(日)BH4反応性高フェニルアラニン血症
 - C型慢性肝炎 フェロンのリバビリンとの併用療法 (日)
- フェーズ3
 - 癌骨転移 デノスマブ (日) [フェーズ2:骨粗鬆症 (日)]
- フェーズ2
 - インスリンシグナル経路活性化 AJD101 (日)
 - 抗DR5抗体 CS-1008
 - 抗インフルエンザ用薬 CS-8958
- フェーズ1
 - 経口抗Xa剤 DB-772d (米・欧)



主要開発品目一覧表

	フェーズ 1	フェーズ 2	フェーズ 3	申請/承認
循環器	<u>DZ-697b</u> DB-772d	<u>DU-176b</u> CS-866CMB(#) SUN 4936h	<u>CS-747</u> HGF CS-866DM (#) CS-866AZ (#)	<u>CS-8663</u> (米:承認)
糖代謝	SUN E7001 (#)	AJD101	CS-011	ウェルコールDM
感染症	DC-159a DX-619 CS-758	CS-023 <u>レボフロキサシ注(#)</u> CS-8958	<u>レボフロキサシ高用量(#)</u> [SUN A0026]	DU-6859a DF-098 (#)(承認)
がん	CS-7017 DE-766(#)	CS-1008		
免疫・アレルギー	CS-0777			
骨・関節		SUN E3001 (#)	AMG162(#) CS-600G (#)	LX-P(#)
その他	SUN N8075	SUN N4057 CS-088 SUN11031	SUN Y7017 (#) KMD-3213	CS-1401E (#)(承認) SUN 0588r DL-8234(#)

- #: 日本でのみの開発
- グローバル(日本以外)で開発している課題に関しては、最も進んだステージのみ記載
- []: 導出
- アンダーライン(青字)は現在の最優先プロジェクト

本資料に関するお問い合わせ先

第一三共株式会社
コーポレートコミュニケーション部

TEL: 03-6225-1126

FAX: 03-6225-1132

本資料における将来の予想等に関する各数値は、現時点で入手可能な情報に基づく弊社の判断や仮定によるものであり、リスクおよび不確実性が含まれております。したがって実際の業績等は、予想数値とは異なる結果となる可能性があります。

つくっているのは、希望です。



Daiichi-Sankyo

第一三共株式会社